

# ZAIDAN NEWS LETTER

MAR/2016  
VOL.26

人を育み 未来へ繋ぐ



## 「犯罪と非行」誌 最終号のお知らせ

皆さまに長らくご愛読いただいた「犯罪と非行」誌は、2016年3月発行の181号で刊行を終了することとし、2016年度から新たな誌名、内容の機関誌を発刊いたします。1969年(昭和44年)の創刊以来、多くの執筆者、愛読者に恵まれ、皆さまの多大なご支援を受け発刊して参りましたが、近年の社会情勢の大きな変化や新しい時代のニーズに対応するために、内容を一新することにいたしました。

新機関誌では、多様な社会問題・時事問題をテーマに特集を組むほか、これらと連動したシンポジウムも適宜開催し、その内容を掲載するとともに、対談や座談会なども織り交ぜながら、魅力的な誌面づくりをめざしてまいります。創刊号の詳細につきましては、日立財団のウェブサイトでご覧いただけます。

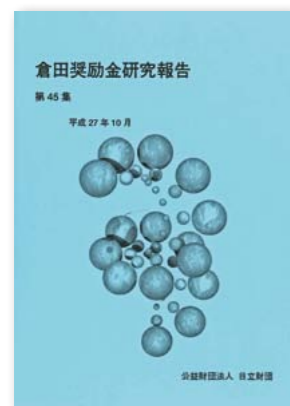
今後ともご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

## 犯罪と非行

No.181  
2016.3

目次	
ご挨拶	田中 幸二 1
「犯罪と非行」誌の編集に際して	富田 正造 3
エッセイ	
「未成年後見人」という仕事 ある少女の10年	小島 幸保 6
友だちとの分岐点	ミムラ 11
笑われるもの	安河内 朗 15
公開シンポジウム「ネット社会と少年非行」	
「基調講演」日米子育て比較	
「どうやって子どもを大人にするか」	ダニエル・カール 21
犯罪学から見たネット社会	山本 正 34
ネット社会と子どもの犯罪被害・加害の実態	香川由美子 46
ネット社会と少年非行の特性	青木 治 58
「ネットに生きる子どもの危うさ」	道藤 美季 72
特集	
危険ドラッグなどの薬物依存をめぐる諸問題	
危険ドラッグ対策について	佐々木正大 86
警察による危険ドラッグ対策と今後の課題	那須 修 102
危険ドラッグなどの薬物依存者の治療上の課題	合川 勇三 118
最近の薬物乱用問題-基礎研究の視点から危険ドラッグの蔓延を考える-	船田 正彦 138
特定生活指導(薬物非行防止指導)の検名女子学園での取組について	川口 博美 154
更生保護における薬物事犯者施設について	押切 久通・山下 麻美 166
海外の犯罪学動向	
フランス刑罰の最近動向	白取 祐司 187
各種研究報告	
少年非行の現状と警察の取組	中村 真二 203
新法下における少年鑑別所の運営について	吉田 里日 222
更生保護における薬物事犯者への処遇及び調査の実態	里見 有功 234
書評 鮎川篤著「少年非行 社会はどう処遇しているか」	小林 寿一 247
(書評) ひかりがあるから「犯罪と非行」表紙写真について	平野達太郎 251
あとがき	261
表紙デザイン・写真	平野達太郎

## 「倉田奨励金研究報告」第45集を発行しました



「倉田奨励金研究報告」は、倉田奨励金の助成を受けた研究の成果をまとめたもので、年1回発行しています。今号は、平成25年度に助成金を受けた研究者を中心に、60名の研究成果を掲載しています。その中から、研究テーマを一部ご紹介します。

不揮発性記憶演算デバイスの実現に向けたダイヤモンド半導体への高効率スピン注入技術の開発 (名古屋大学 植田 研二)

サステナブルな鉄触媒の精密制御による新規合成手法の開発 (東京工業大学 湊 猛志)

購読ご希望の方は財団事務局までお問い合わせください。無償でお送りいたします。

## 「季刊 環境研究」180号を発行しました

【特集:第42回環境賞/森里川海、地域の底力】

今号の特集は、2015年6月に表彰を行った「環境賞」の受賞論文と「森里川海、地域の底力」の二本立てです。

その他、179号からの連載「アジア・ビジネスにおける環境法〜」は、ミャンマーとカンボジアを、環境サイエンスカフェ講演録は「水をめぐる地球環境問題」と「温暖化の過去と未来」を紹介しています。

購読方法は以下の財団ウェブサイトをご覧ください。  
<http://www.hitachi-zaidan.org/works/environment/work01.html>



## 編集後記

27年度後半の日立財団の事業を紹介しましたが、編集の都合で3月18日に行われた「日立スカラーシップ卒業式」を掲載できませんでした。東南アジアからの奨学生の卒業を祝う式典はインドネシアとタイの大使をお招きし奨学生の国の踊りや歌を交えた大変盛大な卒業式となりました。

日立財団はこの1年、合併前のそれぞれの財団の事業をすすめてまいりましたが、40年近く継続してきた5つの財団の事業を見直し現代社会のニーズに合う事業としてスタートいたします。28年度は、気持ちも新たに、人と社会により深く関わる財団をめざしてまいります。皆さまのご支援とご指導をお願いいたします。

## 公益財団法人 日立財団

hitachizaidan@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-5221-6675 FAX 03-5221-6680

所在地 〒100-8220 東京都千代田区丸の内一丁目6番1号  
丸の内センタービル12階

財団ウェブサイト ▶ [www.hitachi-zaidan.org](http://www.hitachi-zaidan.org)

## タイ・コンケン大学学長ほか理事を表敬訪問

2月12日(金)、タイ・コンケン大学キティチャイ学長、ナワラット副学長ほか総勢7名が田中理事長を表敬訪問されました。コンケン大学からは、これまで多くの大学教員を財団が奨学プログラムで支援したことに対し感謝の意が伝えられ、今後さらに、大学として発展して行くためにも、継続的なサポートをお願いしたいとの要望がありました。

コンケン大学は財団がパートナーとしてお付き合いしている大学の中でも、特に、精力的に財団の奨学プログラムに優秀な人材を送り込んできております。財団はこれまで31年の間に日本の大学院での博士課程留学を支援する日立スカラーシップのもと15名の教員を招へいしてきました。キティチャイ学長自身も新潟大学に留学した経験があり、日本で学び、日本で生活した経験は大変貴重であったと話されていました。

現在、滞日中の日立スカラーシップ奨学生は19名ですが、

そのうちコンケン大学教員は、早稲田大学理工学術院経営システム工学と東京大学大学院電気工学の博士課程で学んでいる2名です。学位を授与された後、母校に帰り、後進の指導にあたりるとともに、研究においてもリーダーシップを発揮して、日本とアジアの架け橋となってくださることを期待しています。



## 環境サイエンスカフェ開催報告

### 第29回【COP21に向けての特別開催】

#### 日本の温室効果ガス削減目標 - 家庭・業務部門における温暖化対策 - (2015年9月16日開催)

土居 健太郎さん(環境省地球環境局 地球温暖化対策課長(当時。現 環境省 福島環境再生事務所長))

2015年11月にフランスで開催されたCOP21(気候変動枠組条約第21回締約国会議)で、2020年以降の地球温暖化対策の新たな国際枠組み「パリ協定」が採択されました。これは1997年に採択された京都議定書以来、18年ぶりとなる枠組みで、世界の平均気温上昇を2度未満に抑える長期目標に向かって、全ての国が温室効果ガスの削減などに取り組むこととなります。

今回のサイエンスカフェでは、このCOP21に挑む日本の姿勢をお話しいただきました。会議での主要論点、各国の草案比較などの総括的な解説のほか、日本の削減目標の仕組みや達成に必要な具体的な取り組みなどをわかりやすく説明いただきました。会場からも貴重なコメントや質問が多数寄せられ、活発な質疑が交わされました。



### 第30回・第31回【シリーズ:気候変動の影響】

#### サンゴから見た世界 - 地球温暖化と海洋酸性化 - (2015年10月21日開催)

山野 博哉さん(国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター長)

#### 海のデッドゾーン- 貧酸素水塊 - 温暖化の影響と予測の不確実性 - (2016年1月27日開催)

重光 雅仁さん(海洋研究開発機構(JAMSTEC) 技術研究員)

気候変動の影響シリーズの3回目と4回目は、温暖化による海への影響についてお話しいただきました。



